

2025 年 7 月 28 日

各 位

会 社 名 株式会社 ニ ッ ピ
代表者名 代表取締役社長 伊 藤 裕 子
(コード：7932 東証スタンダード)
問 合 せ 先 取締役 宮 脇 幹 太
(Tel. 03-3888-6651)

第 178 回定時株主総会における質疑応答について

第 178 回定時株主総会で株主の皆様からいただきましたご質問・ご意見は、他の多くの株主様にとっても関心の高い内容であるかと存じますので、質疑応答の内容を以下のとおりお知らせいたします。

また、株主総会では、2025 年 5 月 15 日の決算発表及び 2025 年 5 月 23 日の中期経営計画発表後に、多くの株主の皆様から寄せられたご質問の中から、代表的な 4 問を選定してご紹介いたしましたので、こちら併せてお知らせいたします。

〈決算発表後及び中期経営計画発表後に寄せられた代表的な 4 問〉	
Q.	2024 年 3 月期から営業利益率が急激に改善されているが、何か転換点があったのか
A.	以前より、当社では営業利益率がおおむね 5 %前後となっており、その低さが課題と認識しておりました。 2024 年 3 月期以降に営業利益率が改善された理由につきましては、それまでは原材料、エネルギー等の価格上昇分を企業努力により吸収しておりましたが、お取引先様との商談で、段階的に価格転嫁を進めたことにより、適切な利益の確保が出来るようになったこと、コロナ禍の収束により需要の回復が進んだこと等が大きな理由となります。
Q.	2025 年 3 月期は当初、減収・減益の予想が出ていたが、その根拠は何だったのか、また結果は、2024 年 3 月期並みに着地したがその理由は何だったのか
A.	2025 年 3 月期においては、円安の進行と長期化の影響、エネルギー及び人件費等のコストアップにより収益が大きく落ち込むことを見込んでおりました。 しかしながら、実際の期中においては、製造部門における生産性の向上や、高止まりしていたゼラチン原料価格に落ち着きがみられたこと等により、収益の落ち込み幅を最小限に抑えることができたため、2024 年 3 月期並みの水準での収益となっております。
Q.	優待品の変更のお知らせがあってから、昨年及び今年の予定も「ニッピコラーゲン 1 0 0」のシリーズ品となっているが、今後もシリーズ品が続くのか
A.	以前、当社は株主優待品を「ニッピコラーゲン 1 0 0」に限定しておりましたが、2024 年 2 月 7 日の適時開示で、「当社グループ取扱品」に変更させていただきました。

これは、元来「当社製品を、株主の皆様によりご理解いただくこと」を当社の株主優待制度の目的の一つにしておりましたが、これを「当社グループ取扱品を通じて、当社グループ事業に対するご理解をより一層深めていただくこと」と目的を拡大したことによります。

2024年3月期の株主優待品につきましては、当社の特許製法で製造した「ショウガ酵素分解コラーゲンペプチド」を一部配合し、当社が所有するコラーゲン技術を最大限活用して製造したコラーゲンペプチド製品として、当社の技術をご紹介したく「ニッピコラーゲン プレミアム」を選定しました。また、2025年3月期の株主優待品については、その後、新しくラインナップに加わった「ニッピコラーゲン100 フィッシュタイプ」を新商品として選定しております。今後の株主優待品に関しましては、先ほど申し上げました目的により選定いたしますが、決定次第、適時開示を通じて株主の皆様にお知らせいたします。

Q. 当社の目標とする株価水準はどの程度なのか、投資単位の引下げについてはどのように考えているのか

A. 当社の目標とする株価水準は、中期経営計画でも触れているとおり、株価純資産倍率（PBR）1倍以上の水準と考えております。
投資単位の引下げにつきましては、東京証券取引所が「投資単位は50万円未満が好ましい」としていることを当社としても認識しております。
投資単位の引下げに関しましては、今後の株式市場の動向、当社の株価水準、企業価値向上への効果など総合的に踏まえて慎重に検討してまいります。
現段階におきましては具体的な諸施策、日程、時期等に関する決定事項はございませんが、今後、決定事項がありましたら速やかに適時開を通じてお知らせいたします。

※中期経営計画はこちら

https://www.nippi-inc.co.jp/ir/policy/mid_tern.html

＜株主総会での質疑応答＞

Q. 土地賃貸事業では、賃料がインフレとともに上がる契約になっているのか。それとも長期固定になっているのか

A. 長期の固定契約となっています。
※契約の詳細につきましては守秘義務に該当しますので差し控えさせていただきますが、一般的な「経済事情の著しい変動等による賃料改定の協議」の条項が含まれております。

Q. 土地の評価は簿価のままで、2000年ごろに土地評価を変えている。土地を時価評価した場合に、どれくらいの利益が存在しているのか

A. 有価証券報告書の注記事項には、賃貸不動産に関連する土地の不動産鑑定評価基準に基づいて自社で算定した金額を時価として記載しております。

※有価証券報告書はこちらからご参照ください。また、第178回定時株主総会その他の電子提供措置事項（連結注記表内）にも記載されております。

有価証券報告書 <https://www.nippi-inc.co.jp/ir/library/securities.html>

連結注記表 https://www.nippi-inc.co.jp/ir/library/shareholders_meeting.html

Q.	土地を取得した当時の価格と現在の価格では膨大な含み益を抱えていると思われるが、会社としてその含み益をしっかりと開示し、資産のある会社をアピールしたほうが良いと考える。会社で持っている資産を時価で表示して、その時価に対して PBR 1 倍を目指してほしい
A.	時価に沿った PBR を目指してほしいという趣旨として、貴重なご意見を承りました。
Q.	新しい中期経営計画の利益目標など新しい推移の数字はどれくらいか
A.	詳細な目標数値はもっていますが、単年度ごとの開示はしておりません。詳細につきましては中期経営計画をご参照ください。 ※中期経営計画はこちら https://www.nippi-inc.co.jp/ir/policy/mid_tern.html
Q.	株式の持ち合いは解消することが多い流れだが、リーガルとの株式の持ち合いを解消することで、PBR 向上や資金を有効に使えると思っている。今後の維持・解消方針を伺いたい
A.	株式の持ち合いについては、世間的には解消に向かっていることは承知しております。株式会社リーガルコーポレーションは創業当初から取引のある企業であり、皮革関連事業においては、長年にわたり主要な取引先となっていることから、株式の持ち合いを行っております。今後につきましては、同社との間で株式の持ち合いに関する協議等が行われる可能性も想定されますが、現時点においてそのような事実はございません。 今後、株式の持ち合いに関する方針等に変更がある場合は、適時開示等を通じてお知らせいたします。当社の株式の保有方針等につきましては、有価証券報告書をご参照ください。 ※有価証券報告書はこちら 有価証券報告書 https://www.nippi-inc.co.jp/ir/library/securities.html
Q.	配当性向や株価は上がっているが、昨年は買収防衛策が継続された。買収防衛策は株価につながらないと考えている。この点について会社の見解を聞きたい
A.	買収への対応方針につきましては、将来的に当社の企業価値を毀損し、株主の皆様にもたらすような買収が行われる可能性も想定されることから、そうした事態に備えて適切に対応できるよう、継続しております。また、手続きの透明性を確保し、関係者の予見性を高める観点からも、買収への対応方針の継続は適切であると考えております。 株主の皆さまのご理解を賜りますようお願いいたします。
Q.	自社株買いや、譲渡制限付き株式を従業員に付与するような考えはありますか。または、既に検討中ですか。従業員の待遇向上や従業員への株主意識の醸成が、株価向上にもつながると考えている。是非実施していただきたい
A.	当社では現在、従業員持株会を運用しており、従業員の出資に対して会社から補助金を支給する仕組みを設けております。これにより、従業員が当社株式に関心を持ち、保有しやすい環境づくりを支援しております。 また、今後につきましては、さまざまな手法についても検討を進めてまいりたいと考えております。

以 上